

第 1 回千代田区川治いのまちづくりガイドライン検討会

議事要旨

日時	令和 4 年 9 月 1 日（木） 15 時～17 時
会場	区役所 4 階 教育委員会室
出席	12 名（1 名欠席）
議題	千代田区川治いのまちづくりガイドラインについて （1）千代田区川治いのまちづくりガイドラインの目的について （2）千代田区川治いのまちづくりガイドラインの構成について （3）川治い整備に係わる取り組み事例について

議事要旨

- 開会
- 委嘱状交付
- 委員自己紹介
- 委員長の選任
⇒委員長は中井委員とする

資料説明（事務局より）

- （1）ガイドラインの目的について
 - （2）ガイドラインの構成について
 - （3）川治い整備に係わる取り組み事例について
- 資料 1 に基づき、川治いのまちづくりガイドライン策定に至るまでの経緯、策定の目的、たたき台の記載構成及び内容が説明された。
 - 資料 2 に基づき、川治い整備に係わる国内外の取り組み事例について紹介がされた。

意見概要

- どこまで未来のことをとらえるのか、例えば高速道路がなくなった未来を想像するのか、今あるままのものとしてそのままに捉えていくのか、未来像をどのように考えていくのかという観点が必要だと考える。
- 川治いのまちづくりとなっているが、水面は入るのか、入らないのかの議論も重要となってくる。水面での活動はぜひ加えてほしい。
- 降雨後にヘドロが水面に浮いている状況が見受けられる。上流河川からの導水による浄化の話もあるようだが、首都高撤去を踏まえ水質浄化、きれいな水面を確保しておく必要があると思う。
- 東京都で 2030 年代後半を展望とした外濠の浄化計画（閉鎖空間の解決）が進み始めている。外濠の現状を整理し、今後の水質改善も視野にいれてほしいと思う。
- 川を線状に考えるのではなく、川を軸にした人の活動の広がりを大事にしてほしい。「川治い」という表現も

もう少しいい表現があるとよいと思う。

- 水辺に求められるものとして「にぎわい」と「静けさ」の 2 つの観点があると思う。水辺への価値観の違いがあり、区側の観点で価値観を崩さないように注意が必要である。
- 住空間を考えたときにどういうコミュニティができるのかと、水辺がどうあるべきかを一緒に考えていくべきであると考える。
- 水の中からある歴史的な資源を水面から見たときにどう活用していくのか、「歴史をつなげていく」といった視点も必要だと考える。
- このガイドラインの策定期間はいつになるのか、現地視察を実施してはどうか。
- 再開発により遊歩道を作っても、連続性がないと散歩すら難しい。連続性を持たせるようにしてほしい。
- 昔は物資の輸送に川を使っていた。川の使い方として、日ごろは水上タクシー等を推進し、非常時にも利用するという使い方も考えられる。
- 防災船着場だけではなく、日常的に舟運を行い災害時にはその舟運を活用するような仕組み作りがあるといいのではないか。
- 昔は、小学校の校庭が川に面していた。小さいころは石垣を降りて川で遊んでいた風景が思い出される。法律や規制が出来て、昔たくさん詰まっていた物事が、多くなくなってしまったのが残念である。
- 川が使用されなくなってしまった。関心も薄くなっている。汚いというイメージが勝手に先行している現状がある。にぎわいという観点はガイドライン上必要であると思う。
- ガイドラインについてより深度化を考えるとよい。具体の川沿いの建築計画にどの程度影響をもたらすのか。強制力が及ばない、小さな建築計画が多く存在する現状がある。地区計画に委ねるという考えも一つだが、ガイドラインで区の考え、理想をイメージし共有することが大事である。
- 川に近づけるか近づけないかという議論には、平面的に近づける・近づけないの他に川・水辺を断面的に考えることが必要である。治水・防災の観点での整理が求められる。
- 休息空間の充実と資料にはあるが、休息だけでなくお祭りやイベント等祝祭的な空間の要素と空間の雰囲気・色彩を入れて膨らませてほしい。
- 安心・安全という観点は必要な要素である。現状の川に遊歩道を作ったとしても、川沿いの建築物が背を向けた建築物が並んでいる状況だと人の目が入らず、安心・安全の面では不安が残る。
- 川沿いを建築する民間企業目線で考えると、区が川に顔を向けることを強く求める姿勢がみえないと事業性がなく、民間企業は実施しない選択をすることが考えられる。そういった意味としてもガイドラインで考えを明確にすることは重要な点といえる。
- 川沿いの建築物の機能更新を行うときに、その場所の地区計画やまちづくりの諸制度について千代田区としてどう考えているのかの指針になるとよい。
- 様々な学会・大学から提案を受けている経緯がある。これらの提案を実践に結び付ける役割にしていきたい。
- 現状は、川沿いで開発が出てきた場合、敷地ごとにできる範囲を想定して検討・対応するしかなかった。本来は、川全体的なビジョンで考えを定め進めていくべきである。当ガイドラインによって全体像を示していくことはいいと思う。
- 水辺は水面と陸地の境界部のつながりが重要だが、管理上、法律は分断されている。分断されている境

界を包括的につなげる議論が必要である。

- 川のすぐそばに遊歩道やオープンスペースがあればよいとなりがちだが、より川沿いの範囲を広く捉え、川に近づいていく歩行者のルート整備やオープンスペース同士を連携させること、少し遠くや高い位置から川が見える場所を作る等、様々な水の活かし方があると思う。そのような観点がたくさんあるということを示してほしい。
- 水面の利用を考えたときに現状だと水面に降りる場所がなく、一般区民が遊ぶという観点は持ち合わせていない。亀島川のほうでは水辺に降りる空間が整備されたが誰も遊んでいない。川が身近になく、排水を通すものだと意識が変わっている。現状のままでは川に興味を持ってないのは当然ではないか。
- 安心・安全については地域の方々の協力も必要であると考え。制度ありきではなく、制度を乗り越えられるような仕組み作りが必要。
- 現在の川は安心・安全のために人を近づけないという方向になっていると思うが、もっと創造的な方向に向けた提案ができるとよいと考える。
- ウォークブルまちづくりと連携し、広がり特徴ある豊かなまちづくりが進められるガイドラインとしたい。
- 川に開くことと、まちにつながることを両立するような計画、考え方を示していけるとよい。接点となる空間の重要性や有効性についても議論されると良い。
- 現在背中を向けている空間を表にすることは難易度が高いため、開発の機運があるところと、既に川沿いに一定の空間や活動が有るところを先導的に誘導するようなインセンティブ制度や運用制度が図れることが望ましい。
- ビジョン実現に向けた整備、運用方策についても道筋を示していけるようなガイドラインとなることが望ましい。
- 実現に向けて、流域に関わる自治体または河川管理者というステークホルダーなど多くの関係者間でのガイドライン・ビジョンの実現が図られる取り組みをあわせて議論できるとよい。
- 個々の開発に対する実行力ではなく、都市の生活の中での水辺の価値・千代田区の水辺の歴史的な役割を正しく知り、どう活かすかをガイドラインに盛り込んでいくことが最低限であると考え。
- 川からまちを豊かにする観点で項目出しすると分かりやすい。項目のイメージは、川に面して生活を送っている人たちが、川により沿える項目や、ガイドラインを守る事で周辺の生活環境が豊かになるようなものとした。
- 楽しいまちにする議論をしていきたい。すぐには実現が難しそうな提案についても、ぜひこの場で議論し、ガイドラインの中に盛り込んでいきたい。

その他

- 資料4に基づき、検討のスケジュールが示された。
- 次回検討会は10月下旬に開催の予定とする。
- 現地見学会については、区民委員からの見学先の提案を受けつつ、日程については委員長と事務局で検討の上、調整を図ることとなった。